

研究ノート

相楽園の活用と運営の展望

Perspective of Utilization and Management of Sorakuen Gareden

小野 健吉

Kenkichi Ono

和歌山大学観光学部教授

キーワード：相楽園、神戸市、日本庭園、庭園管理運営、観光資源

Key Words : Sorakuen garden, Kobe city, Japanese garden, garden management, tourist attractions

Abstract :

Sorakuen garden, located in the central district of Kobe city, was built in the Meiji period, namely the late 19th century. It covers about two hectares of land, and it is now owned and managed by Kobe municipal government. It attracts approximately 100,000 visitors annually. Many of them are neighborhood residents, though some domestic and international tourists also visit this garden. This paper proposes the following requirements for more appropriate management of Sorakuen garden based on the analysis of available data on the utilization status of the garden and the tourist movement within Kobe city: improving planting maintenance to be more characterized as a Japanese style garden, increasing the number of visitors during the summer and winter seasons by implementing various projects including events, considering appropriate entrance fee system to increase the total income, and cooperating with the neighboring Kitano district, a popular tourism destination, to attract more visitors.

I. はじめに

相楽園は明治時代に小寺泰二郎が造営した邸宅で当時は蘇鉄園と呼ばれたが、1941（昭和16）年に神戸市の所有するところとなって相楽園と改名された。神戸市の中心市街地（中央区中山手通）に所在し、異人館街として知られる北野地区とも近接しており、現在は都市公園・文化財庭園として市民・観光者の利用に供されている（図1）。敷地面

積は19,566㎡で、その大部分が国登録記念物（名勝地）として登録されるとともに、1910（明治43）年築造の旧小寺家厩舎ならびに戦後になって園内に移築された旧ハッサム住宅（1902年頃の築造・図2）と船屋形（1682～1704年頃の築造）は国の重要文化財に指定されている。相楽園を所有する神戸市では建設局公園部管理課がその全般的運営を担



図1 相楽園（相楽会館から・筆者撮影）



図2 旧ハッサム住宅（筆者撮影）

当するが、現地で維持管理と運営に当たっているのは指定管理者に選定されている神戸市造園協会の神戸市公園緑化協会である。年間の入園者は、ここ数年 10 万人を若干下回る状況で推移している。

本稿では、神戸市建設局公園部管理課から提供いただいた各種資料ならびに現地で指定管理者からいただいた説明等に基づき、それらを把握・分析したうえで、今後の相楽園の観光を含めた活用および運営の在り方について展望する。

Ⅱ. 相楽園の概要

蘇鉄園（現在の相楽園）を造営した小寺泰二郎（1836～1904）は旧三田藩士でその財政改革にも参画して活躍したが、明治維新後には神戸の発展を見越した不動産投資が成功を収め巨万の富を手にした。泰二郎は 1876（明治 9）年に神戸市中山手 5 丁目に 2ha に及ぶ邸宅を造営し、蘇鉄園と名付けたという¹。1885（明治 18）年頃には庭園の築造に着手、1892（明治 25）年 11 月 22 日には完成園遊会が開かれている²ので、この頃に庭園は一応の完成を見たのであろう。造園等の邸宅の整備は泰二郎の没後も長男で後に神戸市長を務める小寺謙吉（1877～1949）に引き継がれ、明治末年頃には池泉を中心とする回遊式の日本庭園が概ね現在見るようなかたちで完成したと伝えられている。

蘇鉄園は 1941（昭和 16）年まで小寺家の本邸であったが、神戸市に所有が移って相楽園と名を変え、一般公開されるようになる。この時点では園池に臨む主屋であった樟風館とその付属建物があったが、1945（昭和 20）年の神戸大空襲で炎上し、建造物では周囲を囲う塀と門ならびに厩舎だけがかろうじて焼失を免れた。戦後になると再び公園としての公開が再開され、1963（昭和 38）年に樟風館跡地一帯に相楽園会館が建設された。さらに、同じ年にはいわゆる異人館である旧ハッサム住宅が、続いて 1980（昭和 55）年には江戸時代に姫路藩主が使っていた川御座船の居室部分である船屋形が園内に移築された。1995（平成 7）年の阪神大震災では、旧ハッサム住宅の煙突が落下したのをはじめ相当な被害を被ったが、復旧がなされた。

文化財としては、船屋形が相楽園移築前の 1953（昭和 28）年に、旧ハッサム住宅も同じく 1961（昭和 36）年に、また旧小寺家厩舎が 1970（昭和 45）年に重要文化財（建造物）に指定されていたのに加え、敷地の大半にあたる 18,257 m²が 2006（平成 18）年に「相楽園」として国登録記念物（名勝地）に登録された。なお、正門からやや上り坂の主園路を進んだ左手にあるクスノキの巨木は蘇鉄園造営以前からあったもので、文化財の指定・登録等はないものの神戸市市民公園条例に基づく「市民の木」に選定され、園のシンボリックな役割を担っている（図 3）。このほか、園内にある中国原産のハクショウ（白松）も同じく「市民の木」に選定されている。

Ⅲ. 相楽園の運営形態ならびに入園者数等の現状と課題

1. 運営形態

相楽園を含む 10 か所の神戸市所管有料公園等³の全般的運営を担当する神戸市建設局公園部管理課（以下、「公園部管理課」という）は、指定管理者制度に基づき、選定された指定管理者に現地の維持管理と運営を委ねている。2018（平成 30）年度の相楽園の指定管理者は、前述のとおり神戸市造園協会の神戸市公園緑化協会（以下、「指定管理者」という）である。2017（平成 29）年度までの制度では、公園部管理課は入園料収入の目標額を設定し、目標額を超えた場合にはその超過額を市と指定管理者が折半し、目標額に届かない場合は指定管理者が不足額を補填する契約となっていた⁴。このため、指定管理者は庭園の日常的な維持管理とともに、目標額達成を一つの目安として各種イベントの開催や広報活動等を行ってきた。

そうしたなか、公園部管理課は他の有料公園等と同様に相楽園についても入園者数・入園料収入の統計を取るほかアンケート等の各種調査を行い、それらをそれぞれの全般的運営の基礎資料としている。

なお、相楽園の通常の開園時間は午前 9 時～午後 5 時。休園日は毎週木曜日と 12 月 29 日～1 月 3 日であるが、つづじ遊山期間（4 月下旬～5 月初旬）と菊花展期間（10 月 20 日～11 月 23 日）は無休となっている。



図3 クスノキの巨木（筆者撮影）

2. 入園者数

まず、2003（平成 15）～2017（平成 29）年度の有料・無料別、月別の入園者数統計（表1）を検討してみよう。総入園者数は、2003（平成 15）年度に 86,435 人であったのが 2017（平成 29）年度には 96,466 人となっているが、この 15 年間で総入園者数が最大となったのは 2009（平成 21）年度の 102,508 人、最低だったのが 2004（平成 16）年度の 74,286 人である。2009（平成 21）年度の入園者がやや多かったが、概ね総入園者数の変動は比較的小さく、全体としては漸増傾向にあると見ることができる。総入園者目標数をどの程度に設定するのが適切かという問題はあがあるが、行政的に施設の稼働率や増収が問われる昨今の状況においては、特に観光者利用を想定した総入園者数増加の取組みも求められているところであろう。また、月別の入園者数を見ると、他の公開庭園と同様に、春と秋に入園者が多く、夏と冬には少ないことが歴然としている。2017（平成 29）年度で見ると、5 月の入園者は 21,937 人、11 月が 20,215 人であるのに対し、8 月と 2 月はそれぞれ 2,153 人、2,211 人と 5・11 月の十分の一程度となっている。なお、特徴的なのは春のピークが桜の開花期である 4 月ではなく 5 月である点で、これは相楽園がツツジの名所となっており、連休期間を含む 4 月下旬から 5 月上旬にかけてツツジ関連のイベントであるつつじ遊山が催されることによるものである。いずれにせよ、繁忙期と閑散期の入園者数の 10 倍の差は過大であり、総入園者数増という観点に立てば夏・冬の入園者数増につながる取組みが求められる。

次に有料・無料別の入園者数に注目してみよう。相楽園の入園料金は、本稿で対象とする 2003（平成 15）～2017（平成 29）年度の期間に改定はなく、大人（15 歳以上）300 円、小人（小・中学生）150 円で、団体割引や相楽園・森林公園・須磨離宮公園がセットになった年間フリーパスの制度が設けられているとともに、65 歳以上の兵庫県内在住者は公的証明書を示せば無料、また身体障害者・知的障害者等も無料等の設定がなされている。また、後述する相楽市の開催日も入園無料となっている。2003（平成 15）年度の有料入園者数は 46,523 人、無料入園者数が 39,912 人、2017（平成 29）年度にはそれぞれ 46,846 人と 49,620 人となっており、2003（平成 15）年度と 2017（平成 29）年度の総入園者数の約 1 万人の差はほぼ無料入園者数の差であることがわかる。無料入園者数が有料入園者数を初めて上回ったのは 2011（平成 23）年度のことで、以後その状況が継続していたが、2017（平成 29）年度はわずかながら有料入園者数が無料入園者数を上回った。その理由は不明であるが、外国人を含む観光者の入園が増加した可能性も考えられる。なお、2017（平成 29）年度の月別入園者数を見ると、無料入園者が有料入園者を上回ったのは 6・10・11・3 月で、特に菊花展と紅葉の季節である 11 月に大きな差が出ているのが目立つ。無料入園者の多数を占めるのが 65 歳以上の兵庫県在住者であると考

えられることから、11 月には交通の便の良い中心市街地にある菊や紅葉の観賞スポットとして、相楽園がこの層からの人気を博していることが窺える。11 月については 2003（平成 15）年度から一貫して無料入園者数が有料入園者数を上回っていることも、このことを裏付けている。

3. 入園料収入

入園料収入は、いうまでもなく有料入園者数および入園料と連動する。2003（平成 15）～2017（平成 29）年度の入園料収入の推移（表2）を見ると、最大だったのは入園者数が最大であった 2009（平成 21）年度で 1,389.9 万円、最少だったのは 2012（平成 24）年度の 936.8 万円である。また、指定管理者制度が導入された 2010（平成 22）年度とその翌年度・翌々年度の 3 年間は 1,000 万円を下回ったが、2014（平成 26）年度に 1,000 万円を超え、2015（平成 27）～2017（平成 29）年度は 1,100 万円台を維持している。これは、指定管理者による運営が軌道に乗ったことを示すものと捉えてよいだろう。

増収を念頭に置きながら今後を展望すると、有料入園者数の一定の増加を図ることとともに検討すべき課題は、無料入園者の範囲であろう。まず、相楽園が神戸市の所有管理する施設であることに鑑みれば、65 歳以上の「兵庫県在住者」を無料とすることには違和感がある。神戸市と兵庫県との間の諸般の行政的事情があるのであろうが、やはり「神戸市在住者」に限定するのが妥当と考えられる。他都市の事例を見ても、入場無料となる高齢者は、京都市の二条城や無鄰菴では 70 歳以上の京都市在住者、大阪市の大坂城天守閣では 65 歳以上の大阪市在住者となっている。さらに付け加えれば、65 歳以上の神戸市在住者にしても、無料が妥当かどうかは検討の余地がある。これについては、神戸市の行政施策全般の中での判断によるため慎重な対応が求められるが、例えば横浜市の三溪園（公益財団法人三溪園保勝会の所有管理）では、2017（平成 29）年 7 月 1 日から、65 歳以上の横浜市在住者について、それまでの無料から 200 円の徴収に踏み切っている。

また、入園料は、前述のとおり大人では 300 円である。神戸市の他の有料公園の料金を見ると、須磨離宮公園が 400 円、森林植物園が 300 円であり、相楽園もこの体系のなかでの料金設定である。市民の公園としての行政サービスという位置付けからすると、この料金設定はおおむね妥当と見てよいだろう。一方で、近隣の北野地区に所在する重要文化財建造物等の入館料を見ると、神戸市教育委員会が所管する風見鶏の館と萌黄の館はそれぞれ 500 円と 350 円、民間のうろこの家・うろこ美術館が 1,050 円などとなっており、単純な比較はできないものの相楽園の入園料が相対的に低いとの印象を受ける。登録記念物（名勝地）であり、常時公開していないとはいえ重要文化財建造物を有するという文化財の観点

表 1 相楽園入園者数（神戸市建設局公園部管理課提供）

（単位：人）

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2003 平成 15	有料	9,538	13,628	1,656	879	881	1,057	5,184	9,499	1,052	705	978	1,466	46,523
	無料	5,873	8,517	1,027	726	1,109	1,040	6,553	10,822	950	888	988	1,419	39,912
	計	15,411	22,145	2,683	1,605	1,990	2,097	11,737	20,321	2,002	1,593	1,966	2,885	86,435
2004 平成 16	有料	6,422	7,779	1,196	645	808	1,191	4,973	11,103	1,319	633	859	1,227	38,155
	無料	4,579	5,205	1,180	712	931	1,070	6,508	12,540	734	861	622	1,189	36,131
	計	11,001	12,984	2,376	1,357	1,739	2,261	11,481	23,643	2,053	1,494	1,481	2,416	74,286
2005 平成 17	有料	5,979	10,704	2,040	1,125	1,014	1,120	4,551	11,606	1,027	1,077	829	1,857	42,929
	無料	3,575	7,407	1,673	1,177	882	1,098	6,218	12,585	574	916	1,061	1,296	38,462
	計	9,554	18,111	3,713	2,302	1,896	2,218	10,769	24,191	1,601	1,993	1,890	3,153	81,391
2006 平成 18	有料	4,568	12,261	2,301	1,387	941	1,775	4,637	9,044	1,317	809	1,200	1,354	41,594
	無料	2,932	8,429	1,022	745	385	831	6,661	10,231	621	569	708	1,282	34,416
	計	7,500	20,690	3,323	2,132	1,326	2,606	11,298	19,275	1,938	1,378	1,908	2,636	76,010
2007 平成 19	有料	6,085	9,843	2,610	1,682	1,740	1,487	5,361	10,240	1,817	817	855	1,917	44,454
	無料	5,669	7,848	1,570	987	762	1,593	6,982	11,504	781	953	806	1,188	40,643
	計	11,754	17,691	4,180	2,669	2,502	3,080	12,343	21,744	2,598	1,770	1,661	3,105	85,097
2008 平成 20	有料	5,379	10,320	1,853	1,077	945	3,053	4,009	10,160	1,508	721	1,256	1,812	42,093
	無料	5,993	6,819	1,409	642	679	4,939	6,372	10,685	1,053	641	795	1,157	41,184
	計	11,372	17,139	3,262	1,719	1,624	7,992	10,381	20,845	2,561	1,362	2,051	2,969	83,277
2009 平成 21	有料	6,551	13,529	1,688	1,681	3,239	1,933	7,383	10,695	1,496	1,060	1,201	1,888	52,344
	無料	7,661	9,836	2,094	767	1,631	3,629	10,110	10,957	802	685	626	1,366	50,164
	計	14,212	23,365	3,782	2,448	4,870	5,562	17,493	21,652	2,298	1,745	1,827	3,254	102,508
2010 平成 22	有料	4,196	10,255	1,729	1,316	2,591	1,406	4,095	10,327	1,683	958	1,137	1,773	41,466
	無料	3,002	8,699	1,486	605	954	1,653	4,630	13,860	804	736	491	1,306	38,226
	計	7,198	18,954	3,215	1,921	3,545	3,059	8,725	24,187	2,487	1,694	1,628	3,079	79,692
2011 平成 23	有料	3,303	8,722	2,581	1,224	1,726	1,277	4,325	7,176	1,771	1,316	1,242	3,364	38,027
	無料	4,372	7,653	1,947	801	965	2,696	5,147	10,866	853	1,547	707	1,054	38,608
	計	7,675	16,375	4,528	2,025	2,691	3,973	9,472	18,042	2,624	2,863	1,949	4,418	76,635
2012 平成 24	有料	3,918	9,755	1,815	1,511	901	1,372	4,401	7,829	1,826	1,280	1,153	1,851	37,612
	無料	5,039	8,501	1,181	1,108	7,699	4,221	6,786	11,606	769	1,618	682	1,461	50,671
	計	8,957	18,256	2,996	2,619	8,600	5,593	11,187	19,435	2,595	2,898	1,835	3,312	88,283
2013 平成 25	有料	5,150	9,709	1,635	1,145	2,050	1,391	3,079	7,311	1,591	1,346	1,185	1,695	37,287
	無料	5,212	9,721	1,358	568	1,025	2,212	5,259	10,961	811	1,191	626	2,225	41,169
	計	10,362	19,430	2,993	1,713	3,075	3,603	8,338	18,272	2,402	2,537	1,811	3,920	78,456
2014 平成 26	有料	4,599	8,223	1,989	1,244	2,641	1,984	3,586	8,731	1,431	1,547	1,413	2,029	39,417
	無料	4,258	10,620	1,343	643	1,442	2,648	5,822	11,772	595	970	773	1,364	42,250
	計	8,857	18,843	3,332	1,887	4,083	4,632	9,408	20,503	2,026	2,517	2,186	3,393	81,667
2015 平成 27	有料	6,525	9,409	1,921	1,486	2,387	2,335	5,239	9,030	1,932	1,613	1,608	2,353	45,838
	無料	5,530	11,076	1,513	827	1,404	2,992	9,420	13,742	1,399	1,043	982	3,697	53,625
	計	12,055	20,485	3,434	2,313	3,791	5,327	14,659	22,772	3,331	2,656	2,590	6,050	99,463
2016 平成 28	有料	6,569	7,219	2,482	1,582	2,243	1,633	4,462	9,474	2,506	1,747	1,995	2,656	44,568
	無料	6,598	8,256	2,268	769	1,430	1,101	6,988	12,556	1,383	1,788	1,258	3,428	47,823
	計	13,167	15,475	4,750	2,351	3,673	2,734	11,450	22,030	3,889	3,535	3,253	6,084	92,391
2017 平成 29	有料	6,186	11,132	2,343	1,937	1,628	3,757	2,896	7,813	3,231	1,804	1,396	2,723	46,846
	無料	5,159	10,805	2,987	1,252	525	3,669	4,435	12,402	1,766	1,736	815	4,069	49,620
	計	11,345	21,937	5,330	3,189	2,153	7,426	7,331	20,215	4,997	3,540	2,211	6,792	96,466

表2 相楽園 年度別入園料収入（神戸市建設局公園部管理課提供）

（単位：千円）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2003/平成15	2,747	3,857	434	247	249	293	1,414	2,641	288	197	273	413	13,053
2004/平成16	1,794	2,133	315	164	214	324	1,328	3,018	368	164	232	338	10,392
2005/平成17	1,664	3,008	528	285	242	280	1,253	3,228	267	269	200	474	11,698
2006/平成18	1,281	3,541	601	362	248	484	1,251	2,436	355	202	320	354	11,435
2007/平成19	1,658	2,714	708	444	464	389	1,401	2,710	511	214	214	483	11,910
2008/平成20	1,420	2,889	480	272	231	740	1,038	2,616	432	191	320	472	11,101
2009/平成21	1,772	3,684	426	458	872	520	1,873	2,788	421	268	311	506	13,899
2010/平成22	1,098	2,773	441	339	696	346	1,047	2,647	479	234	265	588	10,953
2011/平成23	814	2,259	591	293	426	310	994	1,751	469	302	349	1,089	9,647
2012/平成24	973	2,519	434	353	214	340	1,077	1,966	469	289	275	459	9,368
2013/平成25	1,366	2,630	427	289	531	339	769	1,839	421	329	289	439	9,668
2014/平成26	1,175	2,189	543	324	671	488	888	2,215	394	376	345	524	10,132
2015/平成27	1,678	2,510	484	391	607	567	1,269	2,278	481	420	371	591	11,647
2016/平成28	1,632	1,879	593	371	552	397	1,098	2,334	627	414	476	677	11,050
2017/平成29	1,581	2,933	584	479	419	932	725	1,898	826	446	341	707	11,871

を含めると、須磨離宮庭園と同額の400円あるいは風見鶏の館と同額の500円程度への引上げも十分可能と考える。仮にそうした料金改定をおこなうにあたって、小人（小・中学生）料金は現状据え置きあるいはさらに低額とするとともに、小人料金の対象に高校生を含めることも提案しておきたい。

無料入園者範囲の見直しや料金の改定等によって増収となり、神戸市と指定管理者との契約で定めた設定目標を上回った場合の超過額については、現在検討中の新たな方式に基づく配分等がなされることになろうが、可能な限り相楽園の維持管理や運営の経費として還元され、文化財庭園としての維持管理水準の向上やイベント・講座等の企画・実施に充てられることが望まれる。

4. アンケート調査からみた来園者像および運営管理の評価

公園部管理課が実施しているアンケート調査^{vi}から2017（平成29）年度の結果^{vii}を見ておきたい。調査の項目は、（1）利用者満足度、（2）利用者属性、（3）運営管理に関する評価（現地での維持管理と運営に関する評価）の3つで、このうち（2）に関しては9つ、（3）に関しては7つの小項目調査を行っている。

- （1）利用者満足度 相楽園の利用者満足度は91.9%である。2014（平成26）～2016（平成28）年度を見ても80%台後半から90%台前半の数値を示しており、概ね9割程度の利用者が満足感を得ていることになる。これは神戸市の有料公園等の中でも神戸布引ハーブ園と並んで高い比率である。
- （2）利用者属性 性別では「女性」が65.7%と多数を占め、年代では「50代」が11.1%、「60代」が76.4%と熟年層の利用が極めて多く、居住地では「神戸市内」が81.7%

である一方、「兵庫県外」は5.8%にとどまる。利用目的では、「花壇・植物（の観賞）」が35.2%、「景観（の観賞）」が24.4%と多く、「観光」を挙げたのは14.8%にとどまっている。来園のきっかけは「地元・近所だから」が33.2%で、「市の広報誌」が16.6%で続く。利用回数では「よく利用する」が58.7%を占め、利用時間は3時間未満が93.2%である。さらに、誰と来たかとの問いに対する回答では「カップル・夫婦」が36.1%、「家族」が26.9%、「友人・知人」が19.7%と多く、これを反映して来園グループ人数は「2名」が65.3%を占める。以上を概括すると、「神戸市在住の熟年の女性が夫婦であるいは家族・友人と共に年に何度かは来訪し、花や植物あるいは庭の景色を1～2時間程度で楽しむ」といった相楽園の入園者像が一つの典型として浮かび上がる。

- （3）運営管理 運営管理面では、「営業時間」等の7つの小項目についてのアンケート調査が行われている。公園部管理課が算出した評価指数^{viii}を見ると、「花壇等の整備・管理状況」90.5、「清掃状況」89.8、「スタッフの対応」89.3をはじめ、「案内表示」85.9、「営業時間」83.7、「設備（トイレ等）状況」79.0と全般的に高い評価を受けており、これらの項目に比べるとやや低い「レストラン・物品販売」の評価でも70.4となっている。この結果からは、指定管理者による現地での維持管理と運営は適切に行われており、あえて今後の課題を挙げるとすればレストラン・物品販売の充実ということになろう。

ただし、アンケート調査結果には表れていないが、文化財庭園の観点で園内の植栽管理状況を概観すると、植栽樹の剪定整枝の必要性が感じられる。特に、ツツジについては枝張り・樹高ともに大きくなり過ぎて庭園景観のバランスを崩して

いる傾向が見受けられる。現在はツツジの花が最大の魅力の一つとなっている相楽園であるだけに、一気にツツジの切詰めを行うことは困難であろうが、計画的に強剪定を実施していくことによって、あらためて望ましい庭園景観が創出されることが期待できる。

Ⅳ. 相楽園におけるイベント・講座

1. 2017（平成 29）年度のイベント

相楽園では、指定管理者が主体となり、年間計画に基づいて多彩なイベントを実施している。こうしたイベントの開催については、相楽園のホームページへの掲載のほか、市の広報誌やホームページへの掲載、チラシの作成・配布等で情報提供を図っている。

2017（平成 29）年度のイベントの実施実績を見ると、4～5 月につつじ遊山、6 月相楽市（あいたのしむいち）、7 月夕涼みの会、9 月にわのあかり、9 月相楽市、10～11 月菊花展、11 月紅葉を楽しむ会、30 年 1 月冬ボタン展・無事すぎの路、1 月冬の夕べ庭園鑑賞会、3 月相楽市が行われている。つつじ遊山や紅葉を楽しむ会等のイベントでは、コンサートや飲食提供などが適宜行われており、入園者のニーズに応えている。また、相楽市は手作りのアクセサリや陶芸品・木工品などを出店販売する催しで、開催日に当たる日曜日は無料開園日となっているため、多くの市民が相楽園を訪れる機会を提供していると言えよう。また、夕涼みの会、にわのあかり、紅葉を楽しむ会、冬の夕べ庭園鑑賞会の各催しでは夜間開園も実施し、普段は目にする事のできない夜の庭園の鑑賞の機会を提供している。

一般にこうした施設でのイベントでは、開催季節と時間の適切さ、場所性の考慮、一定以上の内容と品質、適正な料金、効果的な広報といった点が重要であるが、相楽園でのイベントはこうした条件に留意して催されていると評価できよう。

2. 2017（平成 29）年度実施の講座

相楽園では、申込制により少人数でいくつかの講座を実施している。2017（平成 29）年度には、ガーデニング講座、庭園講座（手入れ）、探鳥会、珈琲講座、鉢小庭講座、ヨガ教室、暮らしに役立つ花療法等が行われた。当日受付の探鳥会を除いて定員を設けたうえでの事前申込制をとっており、いずれも人気が高い。また、探鳥会は午前 8 時 30 分からの開始で、早朝開園により開催しているものである。なお、2018（平成 30）年度からは新たに囲碁講座も開催されている。こうした講座の内容は、概ね神戸の中心市街地にある広大な日本庭園としての相楽園の特性を活かしたものとして評価できる。

3. イベント・講座に関する検討課題

相楽園でのイベント・講座の今後の検討課題を三点あげて

おきたい。まず第一点として、7・8 月や 2 月といった閑散期において入園者増が期待できるイベントの企画・実施である。イベント開催季節が春と秋に偏りがちになるのは庭園の特質上やむを得ない部分もあるが、そもそもそうした季節はたとえイベントを行わなかったとしても入園者数が多い時期であり、夏と冬にこそ季節に見合ったイベントを開催して入園者増を図ることが期待される。近年の高温から夏のイベントには相応の配慮が求められるが、落葉樹が葉を落として見通しがよくなる冬は庭園の細部鑑賞には適した季節であり、気候的に極端な低温や入園に支障をきたすような積雪もほとんどない神戸市では、庭園鑑賞の観点からのイベント企画も一案であろう。

第二点としては、県外からの入園者すなわち観光者の増大に資するイベントの企画・実施である。これについては、相楽園単独でのイベントよりも観光者が多く訪れる近隣の北野地区等との連携による企画が有効であろう。

第三点は、若い世代が関心を持ち、なおかつ参加しやすい講座の企画・実施である。この場合、相楽園の特性を活かすことに必ずしもこだわりを持つ必要はなく、若い世代が相楽園に親しみを持ってもらうことを主眼とすることが望ましい。講座の開催時間についても、この世代が参加しやすい土日等が適切であろう。

V. 観光と相楽園

1. 神戸における観光動向

ここで神戸市における観光動向について、神戸市経済観光局観光 MICE 部観光企画課による 2016（平成 28）年の観光関連資料に基づき簡略に紹介しておきたい。

まず、『平成 28 年神戸市観光入込客数について』¹⁹ によれば、観光地点で日帰り客 1,661 万人、宿泊客 506 万人の計 2,167 万人、行祭事・イベント 1,332 万人を合計すると 3,500 万人となる。これは前年度比 97.3%となるが、微減の原因は大型連休の日並びや台風の影響、観光関連施設の改修等による休館等の影響によるものとの分析がなされている。エリア別の観光入込客数を見ると、六甲・麻耶や有馬、須磨・舞子などを除く市街地で、観光地点 1,290 万人、行祭事・イベント 1,145 万人となっており、市街地のうち異人館の集まる北野地区はそれぞれ 100 万人、36 万人となっている。公立施設の来場者数では、須磨海浜水族館 120.3 万人、王子動物園 109.7 万人と並んで北野工房のまちが 107.2 万人と百万人台を記録し、神戸布引ハーブ園 36.2 万人、風見鶏の館 27.5 万人等となっている。中でも注目すべきは、北野工房のまちである。北野工房のまちは、阪神淡路大震災後の小学校統合で使われなくなった校舎のリノベーションにより 1998（平成 10）年に開館した体験型観光施設である。飲食店や雑貨店など 20 店舗以上がテナントとして入るとともに、それらの店舗の半数近くでは体験メニューを提供しており、イベント開催が可能な講堂もあることから、異人館街である北野地区を訪れる観

光者の人気を博している。

次に、『平成 28 年観光動向調査について』^x。これは 2016 (平成 28) 年度に 7 地区 32 地点での対面アンケート調査の結果を分析した報告書で、ここでは相楽園に近い北野地区について主要項目を取りまとめている。まず、来訪者の「性別」については、北野は男性 43.6% (神戸市全体では 48.9%)。以下カッコ内は神戸市全体)、女性 56.4% (51.1%) と女性の比率が高い。「年齢構成」では、20 歳代が 27.1% (19.2%) が目立つ。また、「居住地」を見ると、神戸市を含む近畿地方が 54.5% (78.3%)、それ以外の遠方が 45.5% (21.7%) であり、遠方から北野を訪れる観光者が多いことがわかる。さらに、「同行者」の項目では、友人知人が 41.9% (27.6%) で家族 32.6% (47.4%) を上回っているのも他の地区では見られない特徴である。一方、「満足度」では、満足が 70.2% (56.6%) を占め、他の地区で比較的多かった「やや満足」27.9% (41.3%) を大きく上回り、来訪者が北野での滞在を満喫していることが窺える。来訪者の典型的な属性は「遠方から知人・友人と旅行にきた若い女性」で、その訪問・滞在に「十分満足している」ことが、この調査結果から読み取れる。

2. トリップアドバイザーでの相楽園の評価

インターネット上の代表的な旅行関連サイトとして知られるトリップアドバイザーでの相楽園の評価^{xi}について、概観しておきたい。相楽園については、2018 (平成 30) 年 8 月 13 日時点で口コミ評価 92 件があり、言語別では日本語 61 件、英語 26 件、ドイツ語 2 件、フランス語・ロシア語・ポルトガル語各 1 件となっている。その評価の内訳は「とても良い」39 件 (43%)、「良い」37 件 (40%)、「普通」13 件 (14%)、「悪い」2 件 (2%)、「とても悪い」1 件 (1%) で、概ね高い評価を受けていると言えよう。とりわけ外国語投稿の評価は高く、英語投稿では「とても良い」18 件、「良い」5 件、「普通」3 件、その他の言語は合計すると「とても良い」3 件、「良い」2 件となっている。

日本語投稿を見ると、高評価の投稿の内容としては、ツツジ・菊・紅葉といった植物の美しさ、日本庭園のたたずまい、相楽市やコンサート・ジャズライブといったイベントなどが挙げられている。投稿の具体的な表題としては、神戸市等の近隣在住者からは「花のシーズンがよいですね」「春と秋のジャズライブがお勧め」「神戸のオアシス」、遠方からの来園者からは「素敵な日本庭園」「落ち着いた庭園を歩ける」「異人館

だけではありませんでした」などがあり、神戸市民にはツツジなどが美しくイベントも充実した中心市街地の公園として親しまれ、観光者からは神戸としてはやや意外性のある日本庭園として捉えられている状況が窺える。一方、外国語投稿を見ると、高評価の投稿の内容としては、日本庭園としての全般的な美しさ、市街地にありながらの静けさを挙げるものが多い。具体的な表題としては、“Beautiful Japanese Garden”, “Hidden pearl and place for meditation in the city”, “Perfect Serenity” などが見られる。

3. 相楽園の外国語パンフレット

前々節 (V. 1.) で示した神戸市実施の観光関連調査では特に取り上げられていない相楽園ではあるが、神戸市には数少ない日本庭園として非日常性を提供できる施設であることから、指定管理者は観光を視野に入れた取組みも始めている。その一つが、外国人観光者の入園を想定に入れた昨年度からの 12 種類の外国語のパンフレットの作成・配布である。配布を開始した 2017 (平成 29) 年 6 月 14 日から年度末の 2017 (平成 30) 年 3 月 31 日までの配布数は表 3 のとおりである。神戸市は外国人の居住者も比較的多く、配布数が必ずしも入園した海外からの観光者数を表すわけではないものの、外国人入園者の使用言語属性がわかる。2017 (平成 29) 年 6 月 14 日以降の入園者数 60,874 人^{xii} に対する外国語パンフレット配布数は 3,894 で、総入園者に対する配布比率は 6.4% である。外国語別の内訳比率をみると、英語 62.9%、韓国語 12.5%、中国語 (簡体字) 10.8% 等となる。ちなみに、東京都所管の 9 か所の文化財庭園に関する 2015 (平成 27) 年度の統計によれば、総入園者約 308 万人に対して外国語パンフレット配布数は 245,784 で配布比率は 8.0%、内訳比率は英語 67.8%、フランス語 12.4%、中国語簡体字 7.8%、中国語繁体字 8.9%、韓国語 3.1% である^{xiii}。配布総数や外国語の種類数も異なるため単純な比較は難しいが、相楽園では韓国語パンフレットの配布比率が 12.5% と高く、フランス語パンフレット配布比率が 2.6% と低い^{xiv} のが特徴的である。いずれにせよ、ここまで多種類の外国語パンフレットの配布を行っている施設は稀であり、今後の推移に注目する必要がある。

VI. 相楽園の今後の活用と運営の展望

I~V 章では、相楽園の概要を把握したうえで、その運営形態と入園者数・入園料収入の現状と課題、開催されている

表 3 平成 29 年度 相楽園 外国語パンフレット配布数 (神戸市建設局公園部管理課提供)

	英語	韓国語	中国語	台湾語	イタリア語	フランス語	スペイン語	ドイツ語	ポルトガル語	タイ語	ベトナム語	ロシア語	計
配布数	2,452	488	423	145	35	100	51	93	12	12	23	60	3,894
配布比率	62.9	12.5	10.8	3.7	0.9	2.6	1.3	2.4	0.3	0.3	0.6	1.5	99.8

平成 29 年 6 月 14 日から配布開始。ただし、タイ語とベトナム語は 11 月から配布開始。なお、「中国語」は中国語簡体字、「台湾語」は中国語繁体字である。配布比率が 100% とならないのは四捨五入のため。

イベントと講座、さらに観光面からみた相楽園について述べてきた。これらを踏まえつつ、本章では相楽園の今後の活用と運営を展望しておきたい。

1. 文化財庭園としての管理

まず、文化財庭園の維持管理面では、明治時代に築造された日本庭園としての価値の増進を図るという観点を指摘しておきたい。神戸市には数少ない歴史的な日本庭園として登録文化財（名勝地）となっており、特に遠方からの来園者（観光者）からは日本庭園としての評価が高いという点を踏まえ、伝統的な日本庭園としての価値の一層の増進を図る在り方が望まれる。例えば植栽管理面においては、樹木の生長によって本来の庭園景観が阻害されることがないような対応である。適切な植栽管理によって、本来の大きな見せ場である水景や石組が際立ち、歩行移動に伴う庭園景観の変化がよりドラマチックになれば、日本庭園としての魅力をより適切に来園者に伝えることができるからである。前述（Ⅲ. 4.）のとおりに、相楽園を代表する植栽であるツツジについても、枝張り・樹高ともに大きくなり過ぎている印象は否めず、計画的な対処が望まれる。

2. 運営

運営形態は、現在の指定管理者制度の継続が現実的であろう。制度の在り方としては、入園者数の増加や入園者からの評価が指定管理者側に金銭的に還元される仕組みをさらに推し進める方向での検討を提案しておきたい。

運営面のうち入園者数については全般的にその増加が望まれるところであるが、特に力点を置きたいのが夏・冬の入園者数の増加であろう。来園者が春と秋に集中するのは公開庭園の一般的な傾向であるとはいえ、相楽園は特にこの傾向が著しい。この問題の一つの解決策としては、前述（Ⅲ. 2.）のとおりに、集客力のあるイベントをむしろ夏や冬に実施することが考えられる^ⅳ。例えば、2017（平成 29）年度までは春のつつじ遊山^ⅳと秋の菊花展期間中に限り内部公開されていた旧ハッサム住宅^ⅳが、2018（平成 30）年度からそれ以外の時期の相楽園のイベントにも合わせて内部公開されることとなった。文化財公開の観点では一定の評価はできる一方で、そうした公開日はそもそもイベントによる入園者が多いことから、公開による入園者数の増加への大きな効果は考えにくいし、文化財の観点からしても過剰な入場は文化財建造物への負担が大きい。それらを勘案すれば、旧ハッサム住宅の内部公開は、従来から入園者の少ない夏・冬に実施し、それを目的に訪れる入園者に落ち着いて見学する機会を提供するとともに、その時期の入園者数の増加につないでいく方向性が得策と考える。言うまでもなく住宅内部のほうが屋外よりも気象の直截な影響を受ける度合いが少なく、その点でも旧ハッサム住宅は夏・冬の公開に適していると言えよう。また、夏のイベントについては、現在も8月下旬に実施されている「にわのあ

かり」のような夜間開園のもとでの企画に期待したい。さらに、冬は樹木の落葉により視通が良好になることから日本庭園の魅力を伝える適期であり、前節（Ⅵ. 1.）で指摘したような植栽管理面での対応と抱き合わせで、日本庭園そのものの魅力を伝える新たなイベントの企画も考えられる。こうした試みは、単に夏・冬の入園者数の増加への寄与だけでなく、季節ごとの相楽園の魅力を再認識にもつながるものであることを併せて強調しておきたい。

また入園料収入の面では、無料入園者範囲や入園料の改定も検討課題であろう。無料入園者範囲については神戸市の行政施策全般の中で判断する事項ではあるが、入園料については、前述（Ⅲ. 3.）のとおりに内部に重要文化財建造物を包含する文化財庭園としての位置づけからして、ある程度の値上げは許容されると考える。

さらに開園日については、毎週木曜日とされている休園日の廃止も検討課題の一つであろう。毎週1日の定期的な休園日は、観光の観点からも廃止することが望ましい。一方で、7・8月や1・2月には、まとまった形での休園日を設け、園内施設等の整備や維持管理作業にあてることも並行して検討すべきであろう。

3. 観光

2017（平成 29）年度のアンケートによれば、来園の目的を観光と答えた人の割合は約七分の一と低く、観光目的で神戸を訪れた人々をいかに誘致するかが観光資源としての相楽園の課題である。

相楽園は、異人館街で知られる神戸市有数の観光地点の北野地区と比較的近い。その立地上の利点を活かすためには、相楽園の位置と内容の周知ならびにバス路線等のアクセスの改善等が考えられる。前者のうちの内容については、近代の造営でありながら伝統的な技術で築かれた日本庭園として季節ごとの彩りを楽しめ、旧小寺家厩舎や旧ハッサム住宅などの近代建築も敷地内に含むといった相楽園の特色とともに、実施中のイベントの魅力を伝えることが重要であろう。北野地区を訪れる観光者の属性として遠方からの来訪者が多いことが明らかになっており、遠方からの来訪者は一般に訪問地での行動範囲が広いことを考えると、北野から相楽園に足を伸ばす可能性は少なくないと考えられる。

また、トリップアドバイザーの外国語投稿を見る限りにおいては、外国人観光者からは神戸市では他にない日本庭園として高く評価されており、この場合も周知が重要であろうが、SNSが担うその役割に期待したい。12種類の外国語パンフレットを準備するなどの指定管理者の対応も高く評価できる。

Ⅶ. おわりに

神戸市中心市街地に所在する文化財庭園として、相楽園は「市民の公園」「観光資源」の両面でのポテンシャルを有し

ている。現状では市民あるいは近隣住民の公園としての利用が中心となっており、それはそれとして意義のあることであるが、一方でその文化財としての資質に鑑みれば観光利用の拡大が望まれる。こうした立場から、本稿では相楽園の実態を各種資料で検討したうえで、今後の活用と運営の展望に関するいくつかの提案を示した。神戸市ならびに指定管理者が、各種の取り組みにより、相楽園の活用に成果を上げていることは高く評価すべきであり、本稿の提案がそうした主体者の取り組みに対していくらかでも参考になればと願う次第である。

本稿の作成にあたり、神戸市建設局公園部管理課の山下清治・推進担当係長、指定管理者である神戸市公園緑化協会・神戸市造園協力会の乾高彰・相楽園長には、資料提供や聞き取り調査で大変お世話になった。末尾ながら、厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

神戸市立相楽園『相楽園』、(製作:神戸市教育委員会文化財課/協力:神戸市造園協力会・神戸市公園緑化協会グループ)、刊行年不詳(2006以降)

【註】

- i 「相楽園(旧小寺邸)と泰次郎謙吉両翁」『神戸史談』第221号(1965年1月25日) p.32。『相楽園』神戸市立相楽園(製作:神戸市教育委員会文化財課) p.4
- ii 『神戸又新日報』1892(明治25)年11月23日号に、「小寺氏の園遊会」の見出しで前日(11月22日)に市参事会員と市議員一同を招いて園遊会が開かれた旨の記事が掲載されている。
- iii 神戸布引ハーブ園、相楽園、森林植物園、須磨離宮公園、北神戸田園スポーツ公園、しあわせの村、北須磨文化センター、神戸総合運動公園、大原山公園及び掖谷公園テニスコート・駐車場の10か所。
- iv 2018(平成30)年度には目標入園者・入場料の設定は行うものの、超過額の折半あるいは不足額の補填のいずれも行わないこととしたが、2019(平成31)年度以降についてはインセンティブの新たな仕組みを検討中。
- v 筆者がこれまでに調査した東京都の文化財庭園の2003(平成15)～2015(平成27)年度の総入園者数の変動を見ると、小石川後楽園では最低が2004(平成16)年度の247,881人、最高が2009(平成21)年度の334,873人で2015(平成27)年度は329,201人、旧浜離宮庭園では最低が2011(平成23)年度の578,206人、最高が2015(平成27)年度の738,003人、六義園では最低が2004(平成16)年度の355,084人、最高が2015(平成27)年度の820,756人、となっている(拙稿「東京都所管文化財庭園の観光を含めた活用の展望」『観光学』2017)。また、横浜三溪園の2003(平成15)～2016(平成28)年度の総入園者数の変動を見ると、最低が2012(平成24)年度の380,076人、最高が2006(平成18)年度の494,509人で2016(平成28)年度は474,272人となっている。
- vi アンケート調査のサンプル数は200を目標とし、目標数を超える回収数を達成している。調査方法は調査員による聞き取り調査で、2016(平成28)年度は10月22日から11月6日のうちの1日で行った。
- vii 公園管理課提供「有料公園等調査結果(2017(平成29)年度)」
- viii 評価指数=(「良い」回答数×2+「普通」回数×1)÷(「良い」+「普通」+「不満」)×100÷2

ix 『平成28年神戸市観光入込客数について』

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/data/statistics/sightseeing/data/img/H28irikomi.pdf> 2018年8月5日閲覧。

x 『平成28年観光動向調査について』

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/data/statistics/sightseeing/data/img/H28doukou.pdf> 2018年8月5日閲覧。

xi トリップアドバイザー日本 相楽園

https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g14127419-d555285-Reviews-Sorakuen_Garden-Chuo_Kobe_Hyogo_Prefecture_Kinki.html 2018年8月13日閲覧

xii 6月14～30日の17日間の入園者数は、5,330人÷30×17で便宜的に算出。

xiii 小野健吉「東京都所管文化財庭園の観光を含めた活用の展望」『観光学』第16号、pp.25～38、2017

xiv 各語のパンフレットがなければフランス語を選ぶ可能性が考えられるイタリア語・スペイン語・ポルトガル語のラテン系言語を含めても5.1%である。

xv 夏のイベントについては、近年の高温を考えれば、実際に8月下旬に実施されている「にわのあかり」がそうであるように、夜間あるいは早朝の実施等の配慮も必要であろう。

xvi 旧ハッサム住宅の所管は、神戸市教育委員会事務局総務部文化財課。

受理日 2018年11月28日